

『算了』の意味と用法

— 文法化の観点から —

劉 曉 晴

〈提要〉

現代汉语中の“算了”是由动词“算”与时态·语气助词“了₁₊₂”的组合演变而来，而且这一用法至今仍在用。除此之外，可以整体作为一个词汇，比如，动词、叹词、语气助词等用法。它的使用频率虽然很高，但因其用法复杂，意义虚灵，在对外汉语教学中多被忽略。故此，本文对“算了”的用法及意义进行了详细探讨，并对“算了”在词汇语法化过程中语义虚化的途径也进行了历时考察。笔者认为，“算了”语义的虚化是从表“算作”义的“A就算了B”形式开始演化的。语义表现为A虽然不及B，但可以勉强算作B，即“A就可以”，“B可以作罢、终止、不去计较”。语义由“算作”到“可以、作罢、不再计较”的演变过程中，包含了说者不在乎、将就、忍让、不得已的态度。这一语义联系一直贯穿始终，影响了现代汉语中“算了”语义的形成及其运用。

0. はじめに

現代中国語の「算了」は、使用頻度が高いが、その意味と用法が複雑なため、日本人中国語学習者には疎遠されている。「算了」は動詞「算」と助詞の「了」から結びつきによってできているのであり、「計算」という動作の完了を表す具体的意味から、「取りやめる」、「大目に見る」などの抽象的な意味に文法化してきており、現代中国語では、一つの語彙として動詞、語気を表す終助詞、感嘆詞又は談話標識といった文法機能を持つようになっていく。しかし、日本人中国語学習者には、このように動詞とアスペクト助詞が一つの語彙に結びつくことは容易に理解できないようである。なぜかという点、日本語にはこのようなパターンがないからである。したがって、この文では、「算了」がどのような言語環境に使われているのか、どのような文法的な意味を持っているのか、抽象化してきた意味と元々の意味の間にどんな繋がりがあるのかについて、文法化の観点から検討していきたい。本稿に取り上げた例文はすべてが北京大学中国語学研究中心 CCL コーパスに依るものである。

1. 「算了」に関するこれまでの研究

現代中国語の「算了」は、主に次のように分布している。

- 1) 有位农民扳着指头给我们算了一笔账。 【『乡镇论坛』2004年08期】

(農民が私達に指を折って計算してくれた。)

2) 也没有去深究, 不发表就算了。 【1994 年报刊精选 \08】

(深い研究もしていないので、発表しなければそれでいいよ。)

3) 算了, 算了。一个瘸子, 又没啥文化, 骗点钱也不容易, 怪可怜的。也可能有一天他会改恶从善成为好人呢! 【1994 年报刊精选 \05】

(もういいよ、許してあげよう。足が不自由な人だし、何の教養もないのだから、お金を騙し取るのでさえ簡単ではない、何とも可哀そうだ。いつか悪事を悔い改めて善行を行うようになるかもしれないよ。)

4) 同事劝他说, 不就多两天嘛, 干脆邮寄送达算了, 何必再跑一趟。

【1994 年报刊精选 \08】

(同僚は彼に、二日間余分にかかるだけじゃないの、いっそ郵送にしたら良い。もう一回行く必要はないんじゃないの、と勧めた。)

上記の例では、1) の「算了」は後に目的語がついており、「動詞+了」の形式であり、「了」が動作の完了を表すアスペクト助詞である。例 2) の「算了」は前に副詞の「就」が置かれて、文末述語になっており、目的語がつかずに、合わせて「取りやめる」、「こだわらない、大目に見る」などの意味を表す。例 3) では、「算了」が文頭や文中におかれ、感嘆や話題転換などの働きをしている。例 4) では、「算了」が文末に用いられ、決断、勧誘、提案などの意味を表し、文末助詞の働きをしているのである。日本人中国語学習者にとっては、例 1) のような「動詞+了₁ (アスペクト助詞)」の形式に対する理解が容易であるので、この文では、例 1) のような「動詞+了」の形式を論じるのではなく、主に「算了」が一体となって一つの語彙的な意味を持つ、例 2) ~4) を中心に取り上げたいと思う。ここでは、例 2) を「算了 1」、例 3) を「算了 2」、例 4) を「算了 3」と記する。「算了 2」と「算了 3」は「算了 1」から文法化してきており、その間には意味的なつながりがあるのである。

「算了」は、語彙として収められている辞書、収められていない辞書がある。『現代漢語八百詞』、『現代漢語詞典』(第 5 版)、『漢語動詞用法詞典』などの辞書には、動詞「算」の見出し語の下に「作罢」(取りやめる)という意味を説明しているが、必ずその項目に、「了」が後につく」という注釈がついている。要するに、これらの辞書には「作罢」(取りやめる)という意味はすでに「算」と「了」の共起によって形成されているが、一つの語彙としてはまだ認められていないのである。一方、少数ではあるが、「算了」を見出し語として設けている辞書がある。例えば、『現代漢語虚詞詞典』、『漢語大詞典』などが挙げられる。『現代漢語虚詞詞典』では、「算了」を動詞と助詞として位置づけられているが、『漢語大詞典』では、その品詞分類が明確に説明されていないのである。董秀芳(2004)は「算了」を一つの語彙として辞書に入れるべきだと主張している。同氏は、

「『作罢（取りやめる）；不再计较（大目に見る）』という意味は『算了』という組み合わせの中でしか表されることはなく、『了』がほかのアスペクト助詞に換えられることもできず、『算』も『了』の存在なくしてはその意味が成り立たないので、『算了』を一つの語彙として見出し語に入れるべきである。…このような助詞を含む強靱な結合体が語彙化によってもたらした結果であり、理解すべきである」と述べている。

中国語の二音節語彙は単語フレーズ（単語と単語の複合）から変化してきたものが多いが、『算了』のような文法構造から来ているものもある。ただし、「了」が文法機能を担うことになったのは宋の時代からだと言われているので、「算」と「了」の共起はそれ以後、元の時代に現れ、終助詞へと変化し始め、清の末期頃、つまり、20世紀に入ってから、徐々に語彙として認識されるようになり、今日までに来ているのである。したがって、辞書の編集者にも語彙としてまだ十分に認識されていないのが現状である。一方、このような状態は「算了」に対する研究自体も自然言語の変化についていない証ではないかと思われる。

「算了」に関する研究はまだ少ないのが現状である。現代中国語の「算了」の意味、用法について詳しく論じる論文はこれまではほとんどなかった。一方、「算了」の文法化については20世紀に入ってから研究が始まった。劉紅妮（2007）は、初めて「算了」の文法化について研究を行った。同氏は「算了」が「算+了」から「算了1」に文法化した意味的なきっかけは「算」（動詞）と「了」（助詞）が合わせて具体的な「みなす（算作）」という意味を表すことから始まったと指摘している。その意味変化のメカニズムは「みなす（算作）」という意味がよく反語文に使われていて、時間の経つにつれて、その反語文のコンテキストの意味を帯びようになり、「算了」が「看做す（算作）」から「看做さなくなる（不算了）」、「取りやめる（作罢）」へと変わっていったと説明している。次のような反語文の例を上げている、

- ・这个又算了个什么儿呢。（清・曹雪芹『红楼梦』67回）
（これはちゃんとしたものと看做せるのか→看做せない→大したことないよ／何もならないよ）
- ・你不过是挨一会是一会罢了，难道就算了不成！依我说快走罢。（『红楼梦』77回）
（あなたはただ我慢しているだけに過ぎないんだよ。まさかそれでいいというわけじゃないんだろう！あなたは早くここを出た方がいいと思う。）

劉順・殷相印（2010）は、

「『算了』が文法化における意味変化のきっかけは『算』又は『算了』が『数に入れる』（算数）、『有効と認める』（有効力）という意味を表すことから始まった。ある事柄は『有効と認める』だったら、そのことが終了、又は完成したことを意味する。そこで、『終了』、『完

成』といった意味が生まれていた。」と述べ、次の例を挙げている、

- ・你手下人且不要慌，早作准备便了。先安排些挠钩套索，须要活捉，拿死的也不算！

(明・施耐庵『水滸伝』)

(君の部下にはまず慌てないよう頼む。早めに準備すれば良い。先ずは長い柄のついた鈎や投げ縄を用意しておけ。必ず生け捕りにしろ、死んでしまったら意味がないのだからな！)

- ・我批条子就算了，不用再找别人了。

(私がメモを書けばいいのだ。他の人に尋ねに行かなくてもいい。)

このように、「算了」の文法化における意味変化のメカニズムは学者の間でもそれぞれ違った認識や見方が生じている。筆者は、「勘定に入れる(算数)」の意味は「みなす(算作)」から来ていると思う。それは「AがBとみなされる」なら、Aが有効であると認められることになると思われるからである。しかし、その「みなす」から「取りやめる」へと変わっていくルートについては、劉紅妮(2007)の推理には賛成し難い。なぜかという、よく反語文に使われるからと言って、必ずしもその言葉と正反対の意味になるとは限らないのではないか、きっと他のルートがあったに違いないと思うのである。そこで、本稿は「算了」の文法化における意味変化のメカニズム、つまり、文法化してきた意味と本来の意味の間の、その深層部にどんなつながりがあるのかを明らかにするとともに、「算了」がどんなコンテキストに使われているのか、文末語気助詞や感嘆詞或いは談話標識として表す語気とは一体どんなムードを表しているのかについてもその意味と用法を詳しく検討していきたいと思う。

2. 「算了」の意味変化

現代中国語の「算了」の意味を理解するにはやはりそのもともとの意味から変化してきた経緯を知ることが大切だと思われる。中国語の語彙の抽象化、文法化は一般的に具体的な意味領域(行域)から抽象的な領域(知的域、発話域)へと変化していき、いわゆる主観化し、さらに文法的役割を果たす機能語に変わっていく(沈家煊1994)。したがって、この節では、まず、「算了」の意味変化に繋がりのあるものは何なのかについて検討する。

2.1. 「算了」の意味変化において、「みなす」(算作) という意味は中心軸的な存在である。

「算了」が「算+了」から「算了1」(動詞)に変化していく過程で「看做す(算作)」の意を表すことがあった。「算」と「了」の結び付きは元代に初めて現れ、主に「計算」、「占う」、「謀略」、「悪計」などの意味を表し、「了」は動詞「算」の完了を表す。明代になると、「算」と「了」が一体となって「看做す」(算作)を表すことがある。例えば：

- ① 拿回城去，算了汝等之功。 【明・吴承恩『西游记』（中）38回】

（町に持って帰りなさい。君らの手柄にするがいい。）

- ② 将那三两定钱就算了这几日空闲草料，即使日后再雇头口，这三两银也不要算在里面。

【明・西周生『醒世姻缘传』（上）5回】

（あの三両の保証金をこの数日間の飼葉代にするのがいいが、たとえ将来また家畜を飼うとしても、この三両の銀は別にしてくれ。）

上記の例は「(将) A 算了 B」の形式であり、A と B はもともと違うものであるが、話し手が A を B と同一視にするという意味を表している。その後、使用頻度の増加に伴い、清の時代に入ってから、B がしばしば省略されるようになる。次の例を見てみよう。

- ③ 湘灵与素娥一同拜见。次及阮氏，水夫人主张，行了小礼。次及田氏，两人俱跪下去。田氏道：“方才交拜就算了！”忙去搀扶。 【清・夏敬渠『野叟曝言』42回】

（湘霊と素娥と一緒に挨拶に行った。阮氏のところに行った時、水夫人の言う通りにお辞儀をした。次に田氏のところに行って、二人とも跪くと、田氏が「さっきもお礼をしたのですからもうよろしい！」と言って、あわてて手を貸した。）

- ④ 平儿笑道：“休说外话，咱们都是自己，我才这样。你放心收了罢，我还和你要东西呢，到年下，你只把你们晒的那个灰条菜干子和豇豆，扁豆，茄子，葫芦条儿各样干菜带些来，我们这里上上下下都爱吃。这个就算了，别的一概不要，别罔费了心。”

【清・曹雪芹『红楼梦』（中）42回】

（平ちゃんは笑顔で言った、「よそよそしいことを言うなよ。我々は身内なんだし、いいじゃないか。安心して貰っておけ。私もまた君に貰いたいものがあるから。年末になったら、君たちが干した野菜や豆類、茄子、ひょうたんの枝などの干物を持ってきてくれ、ここの皆が好きなんだ。それだけでいい。他のものは一切要らない。余分な気遣いをしないでくれ。）」

- ⑤ 我有一句话，今日你起身，必该叫他远送才是。他因病冲喜，如今才好些，又是昨日一天劳乏，出来恐怕着了风。故此问你，你叫他送呢，我即刻去叫他；你若疼他，我就叫人带了他来，你见见，叫他给你磕头就算了。 【清・曹雪芹『红楼梦』（下）97回】

（言っておきたいことがあります。今日のあなたの旅立ちには、彼（宝玉）に遠くまで見送ってもらうのが当然でしょう。しかし、彼の病気はおかげさまで、今のところはいささか良くなったけれど、また昨日一日の疲れが出て、出かけると風を引く恐れがあります。そこで聞きますが、彼に見送ってもらいたいなら、すぐに彼を呼んできますし、もし、彼の体を心配するのならば、誰かに彼を連れて来てもらい、あなたに会って、土下座して許しを請わせることにしましょう。）

例③の「算了」はさっきやったお礼を今からやろうとする行為とみなす意味で、今よる礼を言う跪く動作はしなくていいよという意味である。例④の「算了」は野菜などの干しもの(A)をはかのそれ以上値打ちのあるお礼(B)とみなすという意味で、Aでもいいので、Bを取りやめるよという意味である。例⑤では、Aは「叫他给你磕头」(土下座させる)であるが、Bは省略されている。しかし、よく見れば、前文にある「叫他远送」に隠れていることが分かる。Aの「叫他给你磕头」よりはBの「叫他远送」の方がもっと理に合っているが、事情によりBを取りやめて、Aでもいい、Aで我慢しようという意味を表している。これらの例ではBがすでに上下の文脈に隠れているが、探せば見つけることができる。

上記の例文もわかるように、「A算了B」は元々AとBを同じレベルのものに看做しているのに対して、副詞の「就」が「算了」の前に置かれることで、「A就算了(B)」という形式になり、Aがいろいろな意味からBほど理想ではないけど、Aでもよい、差し支えない(A就可以)。したがって、Bはしなくていい、取りやめよう(作罢)という意味が生みだされていた。その意味からも間に合わせる(将就), 譲る(让步), 気にしない(不在意), 大目に見る(不计较)といった譲歩や寛大的な意味も含まれており、現代の「算了」の意味にまで繋がっているのである。

2.2. 「算了」の意味が「みなす」(算作)から「取りやめる」(作罢), 「大目に見る」(不计较)などへと変化する

2.1. に述べた段階では、「A就算了(B)」は、AもBもまだ具体的な事物や行為であり、Bはしばしば隠れていたが、そこからは意味的にさらに抽象化、主観化していく。Bはやがて話し手の心的理想値に変わり、文中に実在しなくなった。Aは理想ではないが、「してもよい」という話し手の心的許容値を表すことになる。「算了」が文末や文頭に常態化するようになり、動作性のある動詞から文頭に単独で使える感嘆詞、文末助詞へと変わっていく。次の例を見てみよう。

- ⑥ 幸亏孝玉怕事，每每拦住，嘱咐不可伤他性命，不过略略动手，吓走这班人就算了。

【清・佚名『乾隆南巡记』(上)6回】

(幸いにも、孝玉が臆病な人で、毎回止めに入っては、命にかかわることはするな、少しちよっかいを出す程度で、その連中を威嚇して追い立てて去らせればいいと言いつけた。)

- ⑦ 算了，算了，不用说了。劝你少讲几句罢。 【清・张春帆『九尾龟』(三)139回】

(もういいよ、やめてよ。いい加減にして。)

- ⑧ 别看是你首先发表的，你还得首先退缩，说说算了罢。

【清・张杰鑫『小三侠剑』(上)2回】

(あなたがまっ先に発表したのだとしても、あなたはまっ先に退却しなくてははいけません。口先だけでいいのです。)

- ⑨ 四人晓得这和尚的法力真大，也就探揉肚皮，只得受着委屈算了。

【清・坑余生『续济公传』(下) 210回】

(4人はこのお坊さんの法力がほんとに強いことをよく知っているので、腹をさすって悔しさを我慢するにしかなかった。)

例⑥は「算了」が条件結果文の中で結果を表す動詞述語を担っており、省略することができなく、Aで終わりにしよう、それ以上は止めることを表している。例⑦は文頭に単独で用いられ、聞き手に「止める」、「引くように勧める」意を表し、ここでは感嘆詞と呼ぶことにする。例⑧、⑨は文末語気助詞であり、譲歩ややむを得ずといったムードを表す。

このように、清の末期頃に「算了」の形式が「A算了B」から「A+就/也+算了」(動詞)、「算了,A」(感嘆詞)、「A算了」(文末語気助詞)へと変わり、意味的にも「看做す」という意味はすでに姿を消し、その代わりに「止める、それ以上は追及しない」、「阻止、勧誘」、「差し支えない、大目に見る、我慢、譲歩、やむ得ず」などのムード的な意を表すようになった。それらの意味の間には話し手や主語が自ら決断する、或いは聞き手を阻止、勧誘する際に、やはり一步引いた譲歩、諦める、やむ得ずの気持ち、又は大ざっぱな、間に合わせるような態度やムードで繋がっているのではないかと思われる。

これらの文法化した経緯を踏まえて、意味拡張過程における深層部にある意味的な繋がりを捉えながら、「算了」の現代中国語における用法、意味を考えてみたい。

3. 現代中国語における「算了」の文法的な意味と用法

「算了」の意味用法は動詞(算了1)、感嘆詞(算了2)、文末語気助詞(算了3)によって違う。この節では分けて論じることにする。

3.1. 「算了1」が動詞としての意味と用法

「算了1」は文末に置かれ、動詞述語になり、省略することができないのである。次は「算了1」の前に名詞主語と動詞フレーズが置かれる場合において検討する。

3.1.1. 名詞+算了1

話し手や第3人称主語がある物事に対して、主体的にそれを終結させ、それ以上に追及しない、或いは諦める、取りやめることを表している(到此为止, 不再追究, 了结或放弃, 作罢)。例えば:

⑩ 我给你打保票, 你这事算了, 人民内部矛盾, 不予追究。【王朔『枉然不供』】

⑪ 汤阿英说过去的事算了, 只要今后把生活做好, 谁也不会把这些事体记在心上。

【周而复『上海的早晨』】

例⑩では話し手が「你这事」（あなたのこのこと）についてはもう終わりにする、それ以上は追及しないと主張している。例⑪も例⑩と同じ意味であるが、主語は第3人称である。また、「算了」の前に「就」や「也」がよくつくことがある。例えば：

- ⑫ 如没人揭发告状，此事就算了；如有人告状，组织部门及人大必须去调查。

【1994 年报刊精选 \11】

- ⑬ 其他人也就算了，以后再这样子可不要拿我开刀啊。 【翻译作品『罗德岛战记』】

例⑫では、話し手がもし内部告発がなければ、このことは終わりにするが、そうでなければ必ず調査すると判断している。例⑬では他の人ならこれ以上は追及しないことにするといった譲歩的な意味を表している。「就／也」が「算了」の前につくことにより、話し手がある条件や原因の下で、物事に対しての判断をしているので、譲歩や語気を和らげるムードが含まれているのである。

3.1.2. VP（動詞フレーズ）＋就＋算了 1

動詞フレーズ「VP」と「算了 1」は「VP」が「算了 1」の仮設や条件となる場合と、「VP」が「算了 1」の主語になる場合という二種類の関係がある。仮設条件文の場合は、もし VP であれば、元の計画やこれからやろうとする動作行為を諦める、取り消す（作罢）などの意を表している。例えば：

- ⑭ 怎么样？有信心就拍，没信心就算了，由我负责。

【『作家文摘』1997D 严寄洲「十年飞灾」】

- ⑮ 这么着吧，你们回去好好想想，前后左右都想到了，要是觉得有问题就算了，要是觉得可以干，就按名片上的号码给我打个电话。 【王朔『懵然无知』】

例⑭では「もし自信がなければ諦めよう」と、例⑮では「もし問題があると思ったら止めよう」と、いずれもある条件下で、話し手が判断しているのである。

「VP」が「算了 1」の主語になる場合は、「算了 1」は具体的な物事に触れずに、VP だけでもよい、それ以上は求めないという気ままな、複雑より簡単さを求め、基準や要求を低めにするような話者や第3人称主語の思いを表す。この場合、よく「随便」（気まま）や少量を表す「V + V」, 「V + 个」, 「V + 一 + 量詞」などと共起する。例えば：

- ⑯ 我尊重他的意见，只是看看就算了。 【1994 年报刊精选 \10】

- ⑰ 为求简便，人们往往随便使用一般的洗面奶，洗面奶就算了，殊不知，这些护肤品虽然在“洁肤”方面做得不错，但对皮肤的滋润及护理却作用甚微。 【市场报 1994 年 A】

「算了1」意味のまとめ：

- 1) ある物事や動作行為に対して、主体的にそれを終結させ、それ以上は追及しない、或いは諦める、取りやめることを表している。譲歩の語気が含まれている。
- 2) VPだけでもよい、それ以上は求めないという気ままな、大ざっぱな、話者や第3人称主語の思いを表すが、それには、複雑さより簡単さを求め、高いレベルの基準や要求を避けて、低いほうにするとといった意味も含まれている。

「算了1」の用法については主に叙述文と勧誘文に用いられることが多い。

叙述文に使われる場合、例えば：

- ⑱ 当时社会上对唐国强和某女演员的关系也是风言风语，我想这门亲事算了，就去信和孙涛商量，孙涛同意回北京。【1994年报刊精选\03】
- ⑲ 当时他可没有当大唐卫公的野心，只想考上个数学博士，在工部混个事就算了。但是这样的事他都没找到。【王晓波『红拂夜奔』】

次の例は勧誘、提案、依頼、促すなどの勧誘文のコンテキストに使われている。

- ⑳ 这样吧，别哭了，大概你被热昏了，把钱付给他们，这件事就算了，怎么样？
【龙枪『夏焰之巨龙』】（譲歩するよう勧誘）
- ㉑ 我说经理咱们的事就算了，我也不对外说你，你也不要再缠着我。
【『作家文摘』1995A 金月「彭晓红自述——年广久的超生冤案」】（提案）
- ㉒ 你只不过是临时帮人家值两天班，能凑合过去就算了，那么认真对你有个什么好？
【张平『十面埋伏』】（間に合わせるよう働きをかける）
- ㉓ 跟皇上说一说，把我发配到我的家乡就算了，你不要把我发配到四川去。
【卜宪群『传奇太后之吕后』】（依頼）

3.2. 感嘆詞「算了2」の意味と用法

「算了2」は単独で文頭又は文中に用いられ、繰り返し使われることもある。主にこれまでの動作行為や言語活動、計画、思いなどを取りやめることを表し、話し手の自らの決断、或いは聞き手に働きをかけるなどの場面に使われる。その意味を論理的に大きく分けると、「止める・諦める」、「否定する・断る」、「話題を転換する」、「選択する」などの四つに分類することができる。

3.2.1. 止める・諦める（停止、作罢）

話し手が聞き手を勧誘する、或いは自ら物事を決断する時、これまで行われていた動作行為や計画、思いを止める、又は諦めるという態度を表しているが、やむ得ず、損をする覚悟でいるよ

うな語気も帯びている。次の例を見てみよう。

- ㉔ 算了，你别哭了，事情已经搞成这个样子。现在很明白：我跟他这两个人中间你只能跟一个。你现在就决定吧，究竟你跟谁？【张贤亮『肖尔布拉克』】
- ㉕ 他们赶去给当时的县委打电话请示——24万元，那时可不是一笔小数——但是三番五次打不通，李经纬说：“算了，我们签约就是，大不了丢掉这顶乌纱帽。”

【1994年报刊精选\12】

例㉔は「算了」が文頭に置かれ、その後「もう泣かないで」という言葉が続いているので、聞き手が泣いているのを止めるように、「もういいよ」という意味を表している。例㉕は上層部の県委員会に指示を仰ぐために電話をし続けたが、なかなか通じなかった。そこで話し手が処分を受ける覚悟で電話での指示を仰ぐことを諦め、許可なしで契約をしようと決意をするが、やむ得ずの語気も帯びている。

3.2.2. 否定する・断る

聞き手のこれまでの考えや提案を否定したり、断ったりする。よく「しなくてもいい」(不用)、などの言葉と共起する。例えば：

- ㉖ 算了，你的德行我清楚，明摆着，你想打小燕的主意，我早看出来【朱文『我爱美元』】
- ㉗ 算了，算了，刚才说的飞机不用了，不用了。

【『作家文摘』1994B 赵树忠“一号专机”驾驶员的“9・”】

例㉖は相手の考えを否定する、例㉗は相手の提案や好意を断るといった意味を表している。

3.2.3. 話題を転換する

話し手がこれまで話している話題を止め、次の話題や動作行為に転換する。よく「話を変えろ」(不谈，不说)などと共起する。次の例を見てみよう。

- ㉘ 算了，不谈这些吧！来，我给你拍几张照片。

【『作家文摘』1993B 曹卫东「张宁在301医院」(下)】

- ㉙ 算了，算了，咱们现在吃饭，不谈这些事……有什么话，吃完饭再说。

【『作家文摘』1994A 施亮「无影人」(连载之三)】

上記の例はこれまでの話を止めて、次の話題や動作行為に変えるという意味であるが、いずれも積極的な転換ではなく、その話が続けられたら、不愉快な気持ちになりそうなので、やむを得ず、

仕方なく話題を転換するような語気が含まれている。

3.2.4. 選択する

いくつかの選択肢の中で、話し手が色々な考えや方案を否定して、雑念を取り除いて、最善ではないが、最終的な決断をする。取りあえず、やむ得ずといったムードが含まれている。例えば：

③⑩ 王超想了想说：算了，我先跟医院说说，先让孩子住院啊。

【『作家文摘』1996A 谈歌「大厂」（连载之二）】

③⑪ 年轻人跳起舞来，还不通宵达旦？他又没开高速公路的经验，万一有个闪失，自己倒楣不说，连累人家女孩子可难交待。算了，我们出钱，叫他和人搭伙坐轿车吧。

【谭亿森『握住我的其实是另一只愛の手』】

「算了2」は主に叙述文と勧誘文に用いられることが多い。例えば：

③⑫ 算了，我不搬家了，房子就关在那里吧！

【『作家文摘』1994B 沈飞德「张学良幽禁雪窦山的日子」（下）】

③⑬ 到底半途又折回来，直对妻子说：“算了，算了！简直活受罪！”

【1993年人民日报\1月份】

③⑭ 当年创业时，有朋友劝说：算了，乡镇企业不要搞什么冰箱啦，为冰箱厂做做配件吧。

【1994年报刊精选\09】

③⑮ 周正诚心地劝说他：“算了，到处乱闯，风险太大，还是跟我到山里去躲起来吧！”

【『作家文摘』1994B 彭荆风「绿月亮」(10)】

例③⑫、③⑬は叙述文に使われており、例③⑭、③⑮は勧誘文に使われている。例③⑫は面倒な引越しを諦めることにする。例③⑬は苦しくてつらいことを途中で止める。例③⑭は高レベルの、複雑なことを止めて、簡単な方にしよう聞き手に勧める。例③⑮は今までのリスクの高い動作行為を止めて、リスクの低い方にしよう聞き手に勧める。

「算了2」意味用法のまとめ：

- 1) 話し手や第3人称主語がこれまでに行われていた動作行為、言語活動、又は、立てていた計画や思いなどを止めたり、諦めたり、否定したり、断ったりをして、次の新しいことへと繋ぐといった主観的な判断をする時の語気を表す。主に叙述文と勧誘文に用いられている。
- 2) 語用論的なコンテキストには譲歩する、やむを得ないといった意味、或いは、高レベル、高リスク、複雑な、面倒なことを避け、低リスク、低水準、簡単な、楽な方にするとといった保

守的, 気ままな語気も含まれている。

3.3. 文末語気助詞「算了3」の意味と用法

文末語気助詞「算了3」は文末に置かれ, 省略されても命題の成立には影響を及ぼさない特徴がある。その表す意味は動詞の「算了1」よりも抽象的, 掴みにくく, 一種の語気を表している。話し手や主語が幾つかの選択肢の中から自らの決断, 主張, 或いは聞き手への勧誘などに使われている。主に次のような語気を表す。

3.3.1. 譲歩する, 或いはやむ得ない時に決断や勧誘をする語気を表す。

例えば:

- ③⑥ 喂, 你回来! 14元卖给你算了, 折本生意! 【市场报1994年A】(让步)
- ③⑦ 她本来想当女演员, 但家长不赞成。她只好结婚算了,
【『读者文摘』总第11期 1982美国「夜半歌声」】(让步)
- ③⑧ 我们单位欠的那一万元税款是不是免了算了, 你是主管所长, 不看僧面也要看佛面。
【1996年人民日报\1月份】(聞き手に譲歩するよう勧める)
- ③⑨ 当时许多人都劝杰克逊忍忍算了, 但杰克逊决心为了蕾切尔与迪金森决一雌雄。
【『读者』(合订本)总第142期 1993】

例③⑥は話し手が聞き手の値段交渉に負け, 14元以上の売値を諦め, 損をする覚悟で14円で物を売ってしまおうという語気を表している。例③⑦は親の反対で, 女優というやりたい職業を諦め, やむを得ず結婚する道を選択する。例③⑧, ③⑨は聞き手に譲歩する, 我慢するよう勧める。よって, この場合, 話し手や第3人称主語が自分又は聞き手の気持ちに沿った選択肢を諦め, 捨てて, やむ得ず譲歩するような決断や提案, 勧誘をする。

3.3.2. 簡単さや速さを求め, 気にしない, 気ままな, 大ざっぱなムードを表す。

例を見てみよう。

- ④⑩ 不用写了, 口头检查算了, 说吧! 【1994年报刊精选\10】(簡単さを求める)
- ④① 由于工作量较大, 陆洪武提议让金全礼专管举报算了, 计划生育由一个姓沙的副专员兼起来。【刘震云『官场』】(仕事の量を軽減する提案)
- ④② 他愿意要就给他算了, 有什么大不了的。【张平『十面埋伏』】(不在乎)
- ④③ 有人认为既然无话可说, 不如敷衍几句算了, 但有人却认为这种做法很不尊重对方, 所以宁愿写“祝福你”这三个字眼便是, 也不愿多加废话。

【『读者』(合订本)总第106期 1991】(随便)

④④ 您自己抹抹算了，这套家具的漆根本不是进口的，早晚都要掉，没法修。

【1994 年报刊精选 \03】（勉強。おおざっぱな，無理にある提案）

例④④は書くより口頭でチェックする方が簡単である。例④④は仕事の量を減らすことにしよう提案する。例④②は大したことがないと思われて，人がほしいのなら，あげればいいという決断をする。例④③は物事に対して，慎重なやり方より，気ままでいい加減なほうを選択する。例④④はしっかりやるより，やむ得ず大ざっぱな，無理にあるやり方を提案する。よって，複雑なこと，大事にすること，慎重でしっかりやるなどのことを捨てたり，諦めたりして，楽で簡単の方，気にしない，大ざっぱなやり方を選択する意味を表している。

3.3.3. 消極的，ネガティブな意味に使われる。

例えば：

④⑤ 战友劝他：“都这么大年纪了，你还图什么，赶紧借这个台阶退下来算了，何必再干这种吃力不讨好的事情呢？” 【1994 年报刊精选 \11】（一步引いて，消極的）

④⑥ 我常常想，干脆做些越轨的事算了。 【翻译作品『雪国』】（消極）

④⑦ 因为我想下定决心跳到河里把自己淹死算了，但现在我再也不想这么做了。

【『读者』（合订本）总第 180 期】

例④⑤はこの機に一步引いて楽な方にしたらいいと勧誘する。例④⑥はいっそ常軌を逸することをやっちゃおうという意味。例④⑦はいっそ自殺してしまおうという思いをする。いずれも前向きな考え方を避け、消極的でネガティブな考え方を思ったり、選択したりする。

「算了 3」意味用法のまとめ：

- 1) 物事を決めたり，選択したりする際に，話し手や第 3 人称主語の考え方には序列ができ，例えば，希望すること⇔我慢・やむ得ず・譲歩すること，複雑・面倒なこと⇔簡単・楽なこと，大事にすること⇔気にしないこと，しっかりと慎重にやること⇔いい加減で気ままにやること，前向きな態度⇔消極的な態度，などである。決断や選択する時，左側の重みのある意味より，右側の軽い意味のほうを選択する傾向がある。
- 2) 上記の序列で右側に位置する軽くて低いレベルにある意味のほうを選択することはやはりそれ以外の考え方，いわばその反対側に位置する重みのあるものを諦める，排除するという意味をしているので，排他的，思い切りのムードが含まれているのである。

上記の 1) のような意味や語気はやはり「取りやめる」，「それ以上追及しない」，「～A でもいい」といった動詞の意味から派生してきており，また，2) の排他的，思い切りのムードは「(A で) 終わりにする」，「それ以外は諦める」といった意味から来ているのではない

かと思われる。

4. ま と め

現代中国語の「算了」は目的語がつく「算+了」という「算」が単独で動詞になる場合を除いて、形式上では「算」と「了」が一体化しており、その間には如何なる言葉も入れない状態となっている。意味的にも「算」と「了」がどちらも欠かさずに全体的に文法的な意味を持っている。その上、使用頻度も高いことから、一つの語彙として辞書に入れるべきだと考えられる。その語彙化、文法化してきた経緯を形式でまとめると次のようになる。

A + (就 / ad) 算 + 了 + B → A + 就 / ad + 算 + 了 (+ B) → A + 就 / ad + 算了 (動詞)
 → 算了 (感嘆詞) + A, A + 算了 (文末語気助詞)
 (ad は「就」, 「也」といた副詞のことを指す)

意味的には、まず、動詞の「算」が完了や結果を表す「了」と合わせて具体的に「AをBにみなす」(将A算作B)の意味を表す。つまり、「Aがいろいろな意味からBほど理想ではないけど、Aでもよい、差し支えない、Aで終わりにしよう(A就可以)。したがって、Bはしなくてよい、取りやめよう(作罢)」という意味が生みだされていた。そこから、AとBの適応範囲が広がり、具体的な事物や動作から抽象化、主観化していった。Bが前後の文脈に隠れはじめ、やがて話し手の心的理想値に変わり、文中に実在しなくなった。そして、Aは理想ではないが、「してもよい」という話し手の心的許容値を表すことになる。また、「算了」が文末に常態化し、動詞としての位置を確立できるようになり、「取りやめる」(作罢)、「諦める」(放弃)、「大目に見る」(不计较)、「それ以上は追及しない」(不再追究)、「～してもよい」(就可以)といった意味を表すようになった。その意味からも譲る(让步)、気にしない(不在意)、又は、間に合わせる(将就)、我慢する、やむ得ずといったムードも持ち合わせているのである。その後、文法化がさらに進み、動作性のある動詞から文頭や文中に単独で使える感嘆詞、文末語気助詞へと変わっていき、話し手や主語が幾つかの選択肢の中から決断、主張、勧誘などをする時、複雑なこと、願うことといった重みのあることまで諦め、速くで簡単なもの、或いはやむ得ず、無理にある、一歩引いた消極的な考え方などを選択する傾向があり、さらに、それには排他的で、いっその、思い切りのようなムードが含まれている。語用論的な観点からは、主に叙述文、勧誘文に使われている。

参考文献

- 汉语大词典编辑委员会编纂『现代汉语大词典』上海 上海辞书出版社 1986
- 中国社会科学院语言研究所编辑室编『现代汉语词典』（第5版）北京 商务印书馆 2005
- 孟琮「他」编『汉语动词用法词典』北京 商务印书馆 1999
- 张斌 编著『现代汉语虚词词典』北京 商务印书馆 2001
- 吕叔湘 主编『现代汉语 800 词』北京 商务印书馆 1980
- 太田辰夫 著蒋绍愚「他」译『中国语历史文法』北京大学出版社 1987
- 俞光中「他」『近代汉语语法研究』上海 学林出版社 1999
- 孙锡信『近代汉语语气词—汉语语气词的历史考察 [M]』北京 语文出版社 1999
- 董秀芳『词汇化·汉语双音词的衍生和发展』成都 四川民族出版社 2002
- 木霁弘『『朱子语类』中的时体助词“了”』『中国语文』1986（4）
- 刘坚「他」『论诱发汉语词汇语法化的若干因素』『中国语文』1995（3）
- 沈家煊『实词虚化的机制—『演化而来的语法』评介』『当代语言学』1998（3）
- 沈家煊『“语法化”研究综观』『外语教学与研究』1994（4）
- 邵敬敏『“好”的话语功能及其虚化轨迹』『中国语文』2005（5）
- 刘红妮『非句法结构“算了”的词汇化与语法化』『语言科学』2007. 11
- 汤晓玲『“算了”的词汇化过程考察』华中师范大学硕士学位论文 2008. 4
- 王巍『“算了，得了，行了，好了，罢了”三个平面浅析』『高等函授学报（哲学社会科学版）』吉林
大学文学院 2010/02
- 刘顺·殷相印『“算了”的词汇化和语法化』『语言研究』2010. 4 Vo1. 30 No. 2

